千葉市

記者発表資料

令和７年１２月２５日
都市局公園緑地部
動物公園
電話　２５２－７５６６

千葉市動物公園リスタート構想アドバンストプランを策定しました
～開園５０周年に向けた再整備計画と新たな取り組み～

千葉市は、動物公園の開園５０周年に向けた「千葉市動物公園リスタート構想」（以下、「リスタート構想」）を平成２６年に策定し、来園者満足度向上や賑わい創出に向けた取り組みを実施してきました。リスタート構想の策定から１０年以上が経過し、社会情勢や動物園を取り巻く状況の変化に対応するため、新たな視点を加えた「千葉市動物公園リスタート構想アドバンストプラン」を策定しましたので、お知らせします。

１　目的

リスタート構想策定後の社会情勢や動物園を取り巻く状況の変化に対応するため、生物多様性の保全、ＳＤＧｓの達成への貢献、アニマルウェルフェアの向上など、新たな視点を加えて今後の取り組みを進め、リスタート構想の具現化を目指します。

２　今後の再整備計画と新たな取り組み

（１）湿原ゾーン・森林ゾーン整備

「『動物の暮らしを魅せる』展示空間の創出」を整備方針とし、動物の生息環境を再現することで、動物の飼育環境の充実はもちろん、来園者が動物や動物の生息地、それらを取り巻く環境問題などについて学べる空間を創出します。

ア　湿原ゾーン

ハシビロコウ、ビーバー、カピバラ、コツメカワウソなど、湿原に生息する動物の展示施設を整備します。ハシビロコウは、アジア初となる繁殖を目指します。

イ　森林ゾーン

ゴリラが群れで生活できる空間を整備し繁殖を目指すとともに、ホンドザルを中心とした千葉ならではの展示施設を整備します。

（２）大池ゾーン整備

大池ゾーン全体を大型のビオトープとして位置付け、生物多様性や生態系を観察・体験できるエリアとして活用できるよう整備します。

湿原ゾーン（ハシビロコウ展示イメージ）

森林ゾーン（ゴリラ展示イメージ）

（３）国内希少種の保全事業

これまで培ってきた動物の飼育下繁殖の技術と知見を活かして国内希少種の保全に取り組むとともに、事業を通して、身近な生物や自然環境の保全の大切さを伝える啓発も進めます。また、種の保存法における「認定動物園」認定を目指します。

令和７年３月から飼育を開始した
日本固有種のアマミトゲネズミ

（４）登録博物館としての取り組み

収集・保管、展示・教育、調査・研究など基本的機能の一層の充実はもとより、これからの博物館に求められる役割も意識しながら、各種の取り組みを実施します。

３　目標

開園５０周年に向けて、リスタート構想の最終目標である年間入園者数１００万人を目指します。また、安定した経営に向けて目標とする指標を設定し、来園者数増加、経費縮減、収入拡大の取り組みにより目標の達成を目指します。

４　公表日

令和７年１２月２５日

５　市ホームページでの公表

【URL】https://www.city.chiba.jp/zoo/enchoshitsu/restart/advancedplan.html

＜参考＞

１　千葉市動物公園リスタート構想

来園者満足度の向上を図り、再び賑わいを取り戻すことで、市民に感動を提供し続ける素晴らしい施設として継続運営していくことを目的に、平成２６年３月に策定しました。

リスタート構想に基づき実施した取り組み（一部）

平原ゾーン整備
（ライオン展示）

環境エンリッチメント
（ハイエナの屠体給餌）

動物科学館リニューアル

２　アニマルウェルフェア

動物の身体的および精神的状態を意味します。動物の心と体が健康かつ幸福であり、飼育環境とも調和している状態が、良いアニマルウェルフェアと言われます。

３　認定動物園

希少種の保護増殖に取り組み、一定の基準を満たす動植物園等を環境大臣が「認定希少種保全動植物園等」として認定する制度です。認定を受けることで、他施設との希少種の移動手続きが円滑に行えるようになるなどのメリットがあります。

４　博物館法に基づく「登録博物館」への登録

千葉市動物公園は市教育委員会による書面審査、実地調査等を経て、令和６年１１月に博物館法で規定されている「登録博物館」に登録されました。

市の施設としては加曽利貝塚博物館、郷土博物館に続き３例目となり、動物園施設としては全国で３例目、関東東北エリアでは初の登録です。